



彩の国
埼玉県

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

〔令和4年5月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～

令和5年1月
埼玉県教育委員会

はじめに

埼玉県学力・学習状況調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加えた自治体初の調査として実施して本年度8回目となりました。

8月下旬に各実施校に返却した調査結果には、児童生徒の取組の成果が表れております。児童生徒には、本調査を通して現在の学力を知るだけでなく、「この1年間でどれだけ伸びたか」「過去複数年の自分と比べてどれだけ変容したか」などを実感し、自信を深めることを大切にしてほしいと考えています。

各学校においては、調査結果のデータから、学力等の伸びの状況を把握し、大きな伸びが見られた学級や教科の担当者からの聞き取りや授業参観を行い、効果的な実践を共有していただきたいと思います。また、児童生徒の学力や学習方略、非認知能力などの状況を把握し、一人一人をより一層伸ばすための指導・支援について教職員で話し合うなど、積極的に活用していただきたいと思います。

本報告書では、調査についての詳細や、結果の活用方法の例、これまでの実施状況から見えてきたこと、今年度の調査結果分析による指導のポイントなどを、分かりやすくまとめています。本報告書を、授業改善等を進める際の参考資料として御活用ください。なお、本報告書は、PDFデータで埼玉県教育委員会ホームページにも掲載しますので、是非、多くの先生方に活用していただきたいと思います。

県では、平成30年度から市町村の研修会等で本調査の特長や具体的な結果データの活用方法を説明する取組なども継続して行っています。今後も市町村・学校との一層の連携・協働による重層的な支援として、「①総合的な支援（本調査の分析結果の普及や効果的な取組の共有）」と「②重点的な支援（伸び悩みを抱える市町村や学校への訪問支援等）」に取り組み、学力向上に関わる様々な関係者の学力向上PDCAサイクルの質がさらに高まるよう働きかけてまいります。

県では、令和6年度からの埼玉県学力・学習状況調査の全面CBT化を目指し、本年度は5市町の小学校11校・中学校7校の協力でCBT化に向けて調査等に取り組んでまいりました。協力いただいた学校からは、「紙の調査以上に児童生徒が集中しているように見えた」「資材管理の負担がなくなった」といった声をいただいております。CBTの主なメリットとして、問題の正誤の状況に加えて解答時間を把握・分析することで、児童生徒のつまづきを把握することが可能になり、個別指導の一助になると考えております。

来年度は、一部の市町村が本調査をCBTで実施することになります。円滑にCBTへ移行することで、児童生徒一人一人の学力と学習意欲を確実に伸ばす教育を引き続き推進してまいります。

今後とも、御理解・御協力をお願いいたします。

令和5年1月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長

渡辺 洋平

令和4年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

埼玉県学力学習状況調査

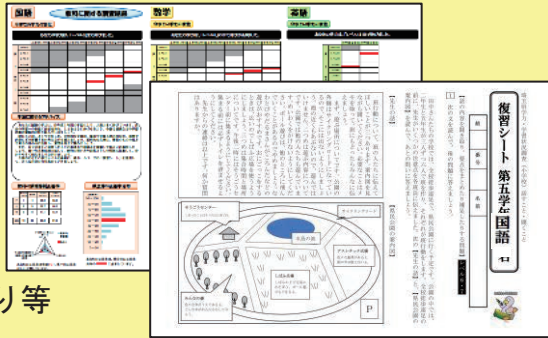


一人一人の学力を確実に
伸ばす教育の推進

子供たち、家庭の取組

伸びの実感

- ・ 個人結果票
- ・ 復習シート
- ・ コバトン問題集
- ・ 面談、懇談会、学校だより等



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

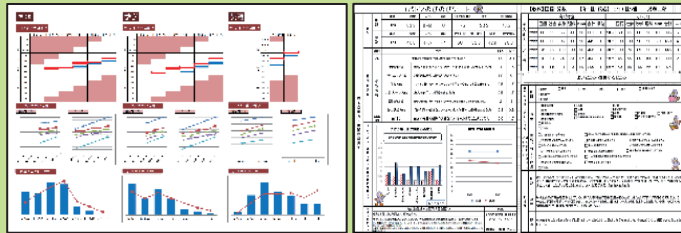
学習方略や非認知能力の向上

市町村、学校の取組

校内研修等で良い取組の共有

児童生徒を多角的に把握

- ・ 各結果帳票
- ・ 県学調調査報告書
- ・ コバトンのびのびシート
- ・ 学力・学習状況調査の活用

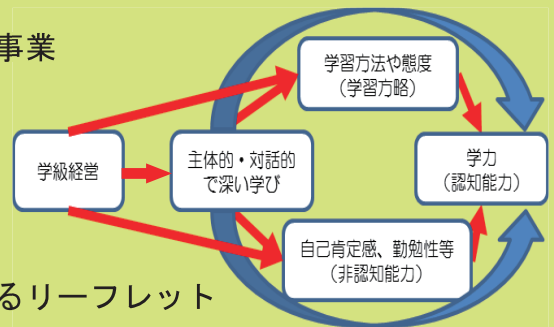


県の取組

学力を大きく伸ばした良い取組の発信

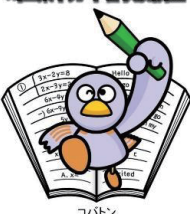
結果の活用方法等の共有

- ・ 学力向上推進協議会
- ・ 「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
- ・ 学力向上研究校指定事業
- ・ 学力向上プロジェクト教員
- ・ 重点支援
- ・ 良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業
- ・ AIを活用した学びの実践研究事業
- ・ 「まずは、この帳票から！」等の分析を支援するリーフレット
- ・ 埼玉県学力・学習状況調査報告書
- ・ 埼玉県学力・学習状況調査の活用方法等の説明
- ・ CBT化に向けた試行・実証
- ・ CBT化に向けた予備調査・プレ調査の実施
- ・ 非認知能力育成実証研究



調査から見えてくる！
学力 学力の伸び
経年での成長 意欲・態度
学習方略 非認知能力

埼玉県学力学習状況調査



埼玉県学力・学習状況調査

目 次

はじめに

令和4年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

1	調査の概要	2
2	学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計	4
3	埼玉県学力・学習状況調査の分析から分かったこと（概要）	8
4	調査に関するQ&A	9

第2章 調査結果の概要

1	「学力の伸び」の状況	14
2	参考資料 ①児童生徒質問紙の項目変更について	18
	②学習方略や非認知能力の質問項目	19

第3章 調査結果の活用

1	個人結果票について	22
2	調査結果の分析・活用について①（学校担当者用）	26
3	調査結果の分析・活用について②（学級担任用）	34
4	まずは、この帳票から！	37
5	埼玉県学力・学習状況調査を活用した実践事例	38

第4章 特徴的な学校の取組の紹介

1	上尾市立平方北小学校	40
2	越生町立梅園小学校	42
3	神川町立青柳小学校	44
4	杉戸町立泉小学校	46
5	桶川市立桶川東中学校	48
6	川越市立城南中学校	50
7	深谷市立川本中学校	52
8	春日部市立葛飾中学校	54

第5章 学習指導のポイント

1	国語	58
2	算数・数学	70
3	英語	82

第6章 質問紙調査結果から見られる傾向

1	「教師との関係」と「自分に対する考え」分析と傾向	88
2	「学級の雰囲気」と「学習の様子」分析と傾向	90
3	「自己認識」と「各教科の学力」分析と傾向	92
4	「主体的・対話的で深い学び」と「各教科の学力」分析と傾向	94
5	その他～コロナ禍の学校生活の様子から～	97

第7章 今後の県学調～C B T化に向けた取組～

○	今後の埼玉県学力・学習状況調査	100
---	-----------------	-----

第1章

調査の概要

本調査の目的や調査の設計、県としての「学力」や「学力の伸び」の考え方についてのイメージを示しました。

また、これまでの分析から分かったことや、調査に関するQ & Aも掲載しています。



1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査の対象

県内市町村教育委員会、小・中学校及び義務教育学校並びに小・中学校及び義務教育学校に在籍する児童生徒。(教育委員会、小・中学校ともにさいたま市を除く)

【実施校数 (実施人数)】

- ・小学校 693校 (140, 523人)
- ・中学校 353校 (133, 682人)
- ・義務教育学校 1校 (121人)

(3) 調査の内容

○児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 対象学年及び対象教科

小学校第4学年から第6学年まで	国語、算数
中学校第1学年	国語、数学
中学校第2学年及び第3学年	国語、数学、英語
義務教育学校第4学年から第9学年まで	

小・中学校の該当学年に準ずる

(イ) 出題範囲

学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前学年までの内容

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

○学校及び市町村教育委員会に対する調査

学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項

(4) 調査実施日等

○実施日

令和4年5月9日(月)から5月18日(水)までのうち、市町村教育委員会が実施可能な日

○調査時間

ア 教科に関する調査は各教科1単位時間とする。

(小学校1教科40分、中学校1教科45分)

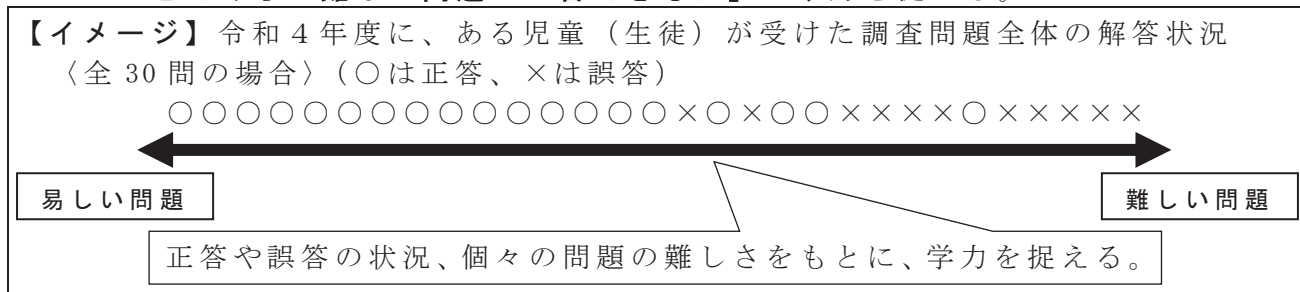
イ 質問紙調査は小学校、中学校とも40分程度とする。



2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計

(1) 本調査における学力の捉え方

「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉える。



ア 学力の捉えについて

上の図のように、調査問題全体の中で難しい問題に正答し、易しい問題に誤答することもあるなど、児童生徒によって正答、誤答のパターンは様々である。そこで、どのような学力であれば、どのような解答パターンとなりやすいかということ、統計的手法を用いて推定し、その結果を学力として捉えている。

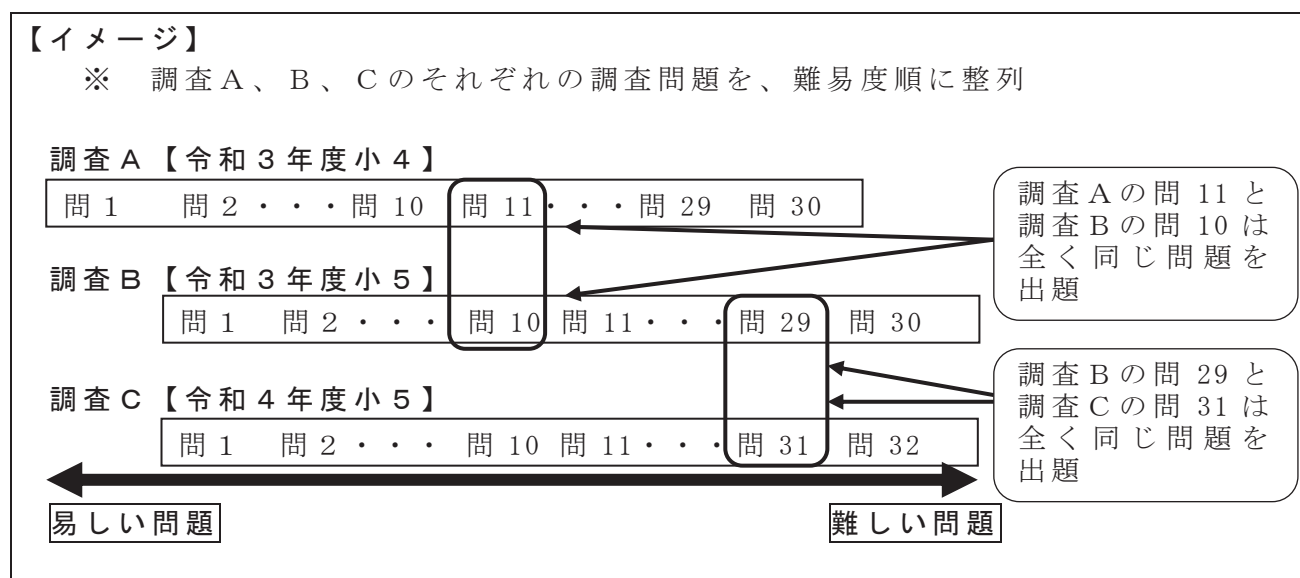
イ 「問題の難しさ」で学力を捉える理由

全国学力・学習状況調査など、正答数（正答率）を学力の指標として使う方式は「いくつの問題に正答したか」で学力を捉えている。この場合、単一の調査の中で学力を比べることはできるが、小学校4年生と5年生など出題内容が異なる調査の結果から学力を比較することは難しくなる。

「問題の難しさ」をもとに学力を捉える方式は、次の(2)に述べる工夫をし、異なる調査の問題の難しさを比較可能にした上で学力を捉える。

(2) 年度や学年で、異なる内容の調査結果を比較するための工夫

それぞれの調査に「全く同じ問題」を一部出題し、その問題への正答や誤答の状況を手掛かりとして、すべての問題について「難しさ」を比較する。

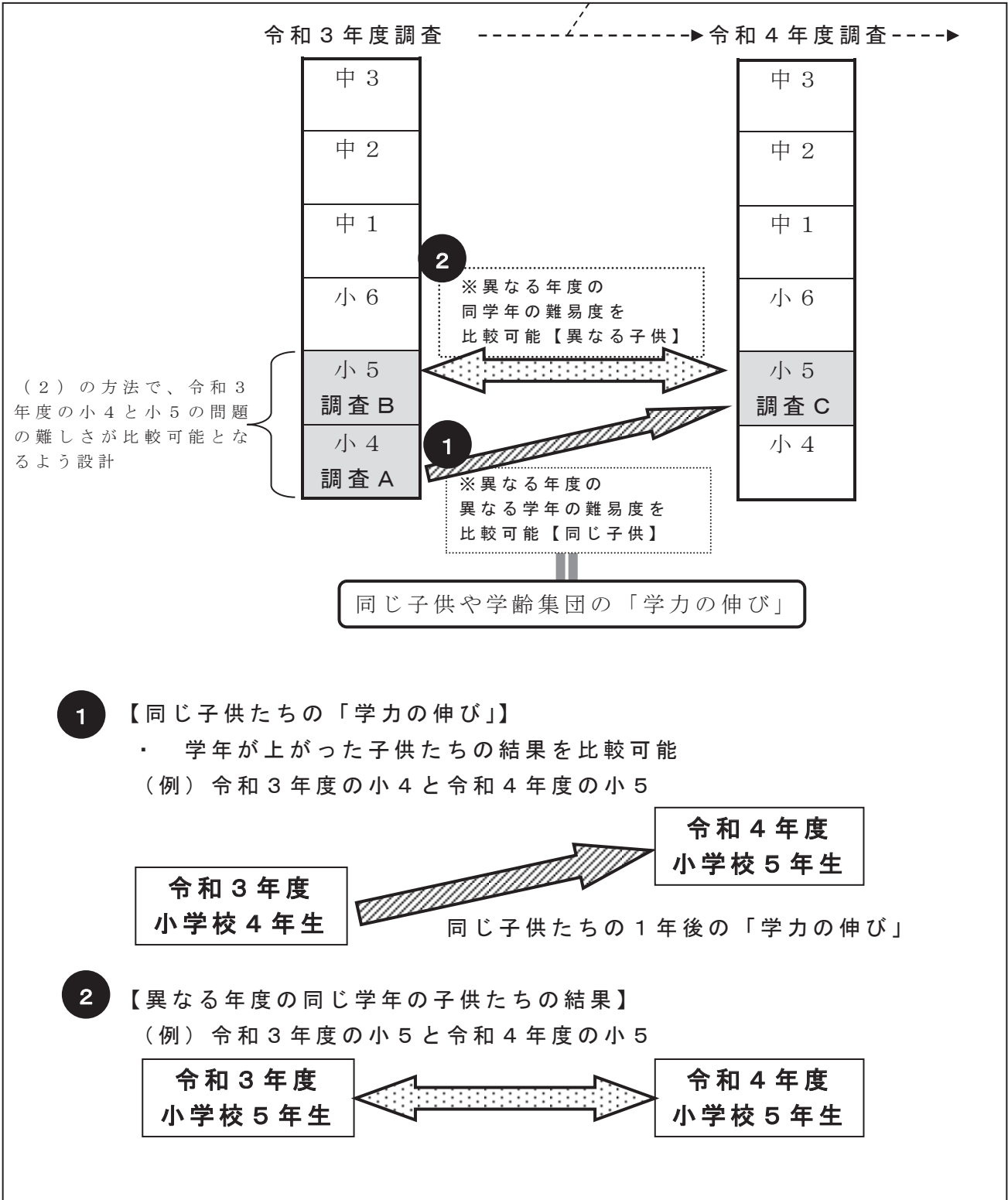


(3) 埼玉県学力・学習状況調査の設計

(1)、(2)に基づき、本調査では、以下のような調査設計により問題の難しさを比較可能にして、それに応じて学力の経年変化(伸び)を見ることとしている。

調査の設計【イメージ】

(2)の方法で、令和3年度と令和4年度の問題の難しさが比較可能となるよう設計



(4) 本調査における「学力の伸び」の捉え方

ア 「難易度」について

本調査では、学力を「どのくらい難しい問題に正答できるか」で捉えるために、調査結果を分析し、全ての問題に難易度を設定している。

< 難易度の例 >

○ 例 1 計算問題 (割り算)

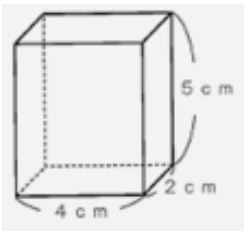
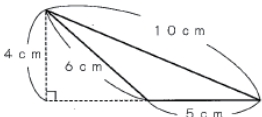
問題例	問題の難易度
$52 \div 4$	3
$5.6 \div 1.4$	4
$0.7 \div \frac{2}{3}$	6

整数同士の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「3」となる。

小数同士の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「4」となる。

小数と分数の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「6」となる。

○ 例 2 求積の問題

問題例	問題の難易度
<p>次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ 2 cm、4 cm、5 cm の直方体の体積を求めましょう。</p> 	4
<p>次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。</p> 	6

与えられた数値全てを使って体積を求める問題である。
結果を分析し、問題の難易度は「4」となる。

与えられた数値から必要な数値を取捨選択する問題である。
結果を分析し、問題の難易度は「6」となる。

イ 「学力のレベル」について

様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断している。

学力は、「学力のレベル」で表される。学力のレベルはレベル1からレベル12までであるが、各学年の測定は以下の表のように7レベルの間で行っている。

学年	学力のレベル	学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～7	中学校1年生	レベル4～10
小学校5年生	レベル2～8	中学校2年生	レベル5～11
小学校6年生	レベル3～9	中学校3年生	レベル6～12

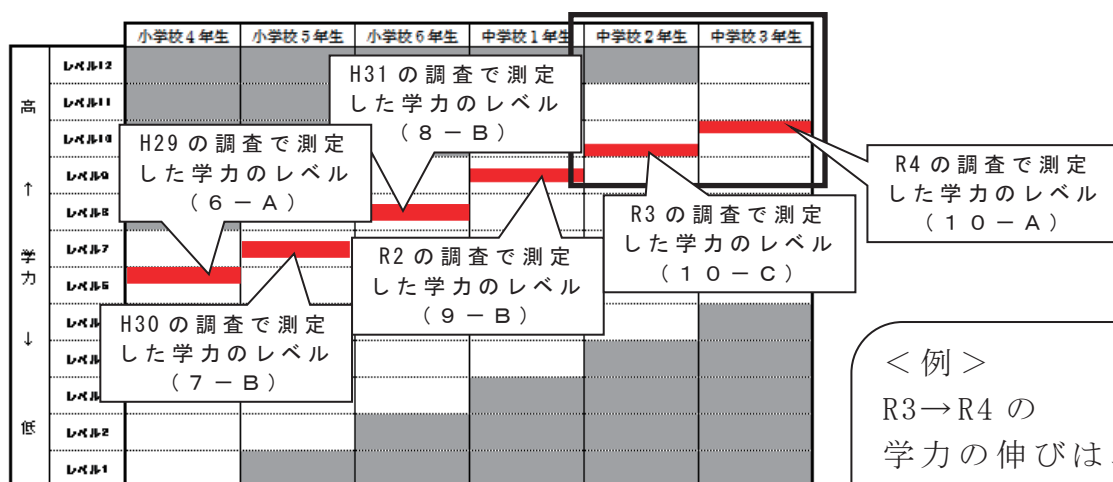
また、それぞれのレベルは、さらに細かく3層（高い順にA→B→C）に分かれており、同じレベルの中でもスモールステップで「学力の伸び」が分かるようになっている。児童生徒には、学力のレベルはこの小さな層で分けた1-Cから12-Aまでの36段階で提示される。

ウ 「学力の伸び」について

本調査では、年度間の学力のレベルの差を「学力の伸び」と捉えている。下図は、個人結果票の一部を拡大したものである。児童生徒には、学力のレベルがバーの位置で示される。前年度のバーの位置と、今年度のバーの位置を比べると「学力の伸び」が分かる。

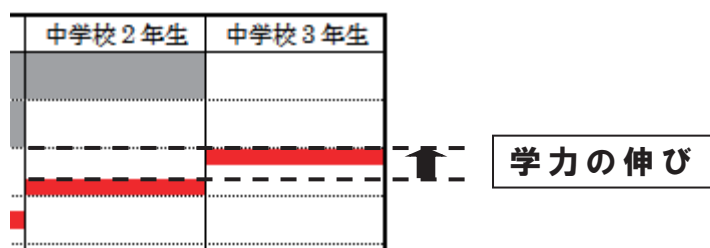
「学力の伸び」は学力のレベルを36段階に分けた中でのレベルの差で測っている。

< 学力のレベルの示し方の例（個人結果票の一部） >



< 例 >
R3→R4 の
学力の伸びは、
10-C から
10-A で
2 となる。

< 個人結果票・ 部分を拡大したもの >



3 埼玉県学力・学習状況調査の分析から分かったこと（概要）

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。



【①～④】 主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】 「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

→ 「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

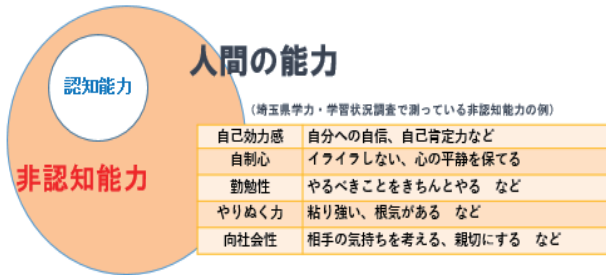
平成 28 年度から令和元年度のデータ活用事業の分析から分かったこと

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて良い学級経営(落ち着いた学級づくり)が、学力や非認知能力を向上させ、子供の学力向上につながっている
- ・保護者や地域の方々が積極的に諸活動と関係している学校は、良い学級経営(落ち着いた学級づくり)を実現している傾向がある
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現には、「授業に対する教員の意識変容」と「専門的な指導を受けながらの継続的授業改善」が重要である
- ・学力や学習方略が伸びた子供は教員との関係性が良い傾向がある
- ・毎年毎年の子供たちの非認知能力を高めることが、学力の維持向上に重要である
- ・学級内における周囲との学力差は学力や非認知能力の変容に影響する

非認知能力とは？

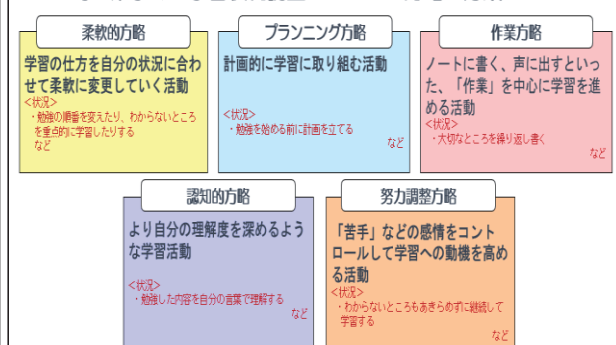
認知能力とは……いわゆる学力であり、たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

非認知能力とは…認知能力ではない能力全般



学習方略とは…学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

埼玉県学力・学習状況調査では5つの方略に分類



【帳票40】を活用することで、

児童生徒一人一人の非認知能力や学習方略について分析することができます。

なお、平成 28 年度から令和元年度まで実施したデータ活用事業の分析結果等の詳細につきましては、ホームページを御覧ください。(https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

4 調査に関するQ & A

(1) 調査について

【Q1】

従来の調査と県学力・学習状況調査とは何が違うのですか。

【A1】

従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、調査年度の児童生徒の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくい課題があります。

そこで、県学力・学習状況調査では、異なる学年や年度間の問題の難易度を調整して学力を測定することにより、小学校4年生から、中学3年生まで、児童生徒たちの学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっていきます。

【Q2】

県学力・学習状況調査の調査問題は、原則として非公開とされていますが、なぜですか。

【A2】

経年での伸びを測るために、同一の問題を年度を越えて出題する必要があることから、問題を原則非公開としています。

県学力・学習状況調査は、OECDの生徒の学習到達度調査(PISA)や、TOEIC、TOEFLなどと同様の分析手法を使っており、こうしたテストでも問題は原則非公開となっています。

なお、県学力・学習状況調査の類似問題等を基に作成した「復習シート」を県教育委員会ホームページに掲載しています。このシートは、家庭や学校で「学習した内容がしっかり身に付いているのか」の確認や、「一人一人の学力をさらに伸ばす」ことに活用できます。

(参考・県教育委員会ホームページ)

県学力・学習状況調査の「復習シート」について

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoubu/images/fukusyuusi-to2.html>

(2) 個人結果票の見方について

【Q3】

例えば、学力レベル7で考えた場合、小学校4年生の学力レベル7の児童と、中学1年生の学力レベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか。

【A3】

県学力・学習状況調査の「学力のレベル」については、学力レベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小学校4年生のレベル7と中学校1年生のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小学校4年生の学力レベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかというのと、解けない問題もあります。これは、学習指導要領により学習内容が定められているため、中学校1年生のレベル7の問題を小4の児童はまだ習っていないためです。

【Q4】

前年度からレベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベル数値は低くても「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

【A4】

本調査では、どの学力レベルの中でも、数値が伸びているのであれば、児童生徒一人一人に伸びを実感させ、自信をもたせることが重要と考えています。

そのため、昨年度の自分と比較して、難易度が1レベルでも高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

【Q5】

例えば、中学2年生での学力レベルが5（中学2年生の中では一番低い学力レベル）の場合、学力レベル5より下のレベルがつけられない状態になっています。

この場合の学力レベルは、どのような基準でつけているのですか。

【A5】

中学2年生の調査において学力を測定できる問題の範囲は、レベル5からレベル11と設定しています。レベル5の問題に1問でも正答していれば、レベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置付けられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答数が0問の場合であり、その場合は、レベル自体が表示されないこととしています。

(3) 個人結果票の返却について

【Q6】

個人結果票を児童生徒に返却する際、どんなことを伝えればよいですか。

【A6】

本調査は、過去の自分の学力と現在の学力を比較できる設計となっています。一人一人の児童生徒に対して、学力の変化の状況についての適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと思います。

①「今までの学力の変化」から学力が伸びた児童生徒に対しては、②「学習に関するアドバイス」を参考にしながら、1年間の頑張りを認めたり、褒めたりすることで、自信を持たせてください。

また、学力が伸びていない児童生徒に対しては、教育相談などを行うことで、つまずきや悩み等を共有し、取組について丁寧な見取りなどを行うことで、今後の学力向上につなげてください。

児童生徒の解答状況については、③「教科の領域別正答率」の数値やレーダーチャートを参考にしてください。調査問題については、本調査の設計上非公表となっていますが、県ホームページ上に「問題概要」や「復習シート」（類似問題）を掲載しているので、それらも活用してください。

返却する際、保護者も同席している場合には、可能な限り時間をかけていただき、個人の「学力の伸び」や児童生徒のよさや課題を丁寧に伝えてください。そのうえで、伸びたところをほめたり、認めたりするとともに、苦手領域を中心に家庭学習を充実するよう伝えるようにしてください。

①今までの学力の変化

②学習に関するアドバイス

③教科の領域別正答率

The image displays three sample pages of a personal results report, one for each subject: Japanese (国語), Math (数学), and English (英語). Each page is divided into three main sections:

- ① 今までの学力の変化 (Change in Current Academic Ability):** This section features a grid where students track their performance across different levels (e.g., Level 10, Level 9, etc.) for each subject. A red line indicates the student's current level, and a black line shows the level from the previous year. The text above the grid states, "あなたは、「レベル10」の学力があります。" (You have the ability of Level 10).
- ② 学習に関するアドバイス (Advice on Learning):** This section provides personalized text for each student, highlighting their strengths and areas for improvement. For example, it might say, "昨年1年間の授業への取り組み方や学習習慣、生活習慣などについて、がんばったことや課題などを振り返り、整理してみましょう。それを見直し、改善することで、学力が伸びることが期待できます。" (Reflect on your learning habits and life habits from last year, and identify areas for improvement to expect an increase in your ability).
- ③ 教科の領域別正答率 (Subject-specific Correct Answer Rates):** This section includes a radar chart and a bar graph. The radar chart compares the student's performance (indicated by a red line) against the average performance of all students (indicated by a blue line) across various subjects. The bar graph shows the distribution of correct answer rates for the entire student body.

(4) 結果帳票について

【Q7】

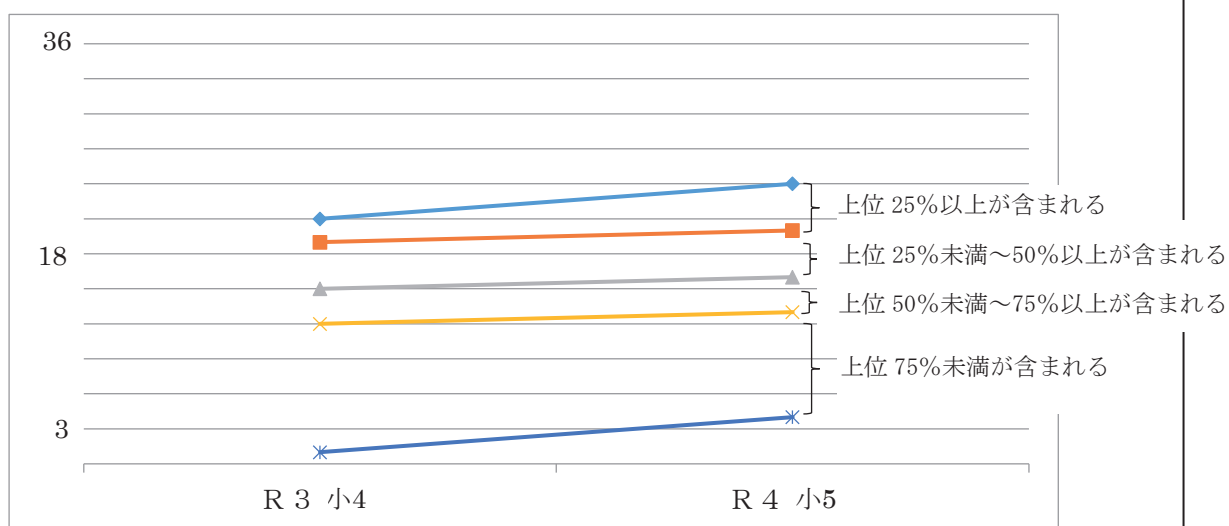
帳票の「28_各実施主体の調査結果票」の見方についてです。
線の傾きは何を表していますか。

【A7】

この帳票では、同学年の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。

前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分布の変化が分かります。

【グラフの見方】



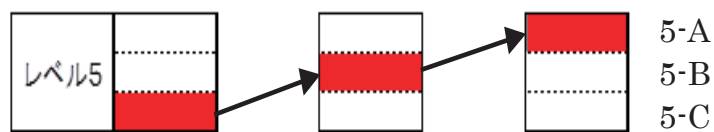
- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ☆ ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

グラフの縦軸は、学力レベルを表しています。

目盛りは、個人結果票の学力レベル（12段階）を表しています。

各レベルの間は、A, B, Cの3段階に分かれています。

よって、全体では36段階（12×3）になります。



第2章

調査結果の概要

平成29年度から令和4年度の6年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、児童生徒質問紙の項目変更、学習方略や非認知能力の質問項目について掲載しています。

1 「学力の伸び」の状況（平成29年度～令和4年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施は、今回で8回目となりました。今年度の結果から「学力の伸び」の状況やその結果の傾向と対応策をお伝えします。

(1) 「学力のレベル」の経年変化について（平成29年度から令和4年度の6年間）

- どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。
- ほぼ全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。



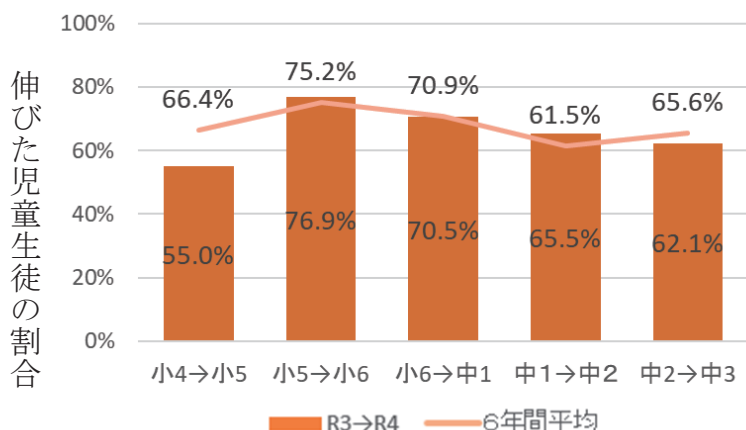
※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【36段階（12レベル×3層）】で設定

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1～21	4～24	7～27	10～30	13～33	16～36

(2) 学力が伸びた児童生徒の割合

〔国語〕

- 約6～8割の児童生徒の学力が伸びている。
- 過去6年間の平均と比べて、中学校第2学年の学力が伸びた生徒の割合は多い。一方、小学校第5学年の学力が伸びた生徒の割合は少なくなっている。



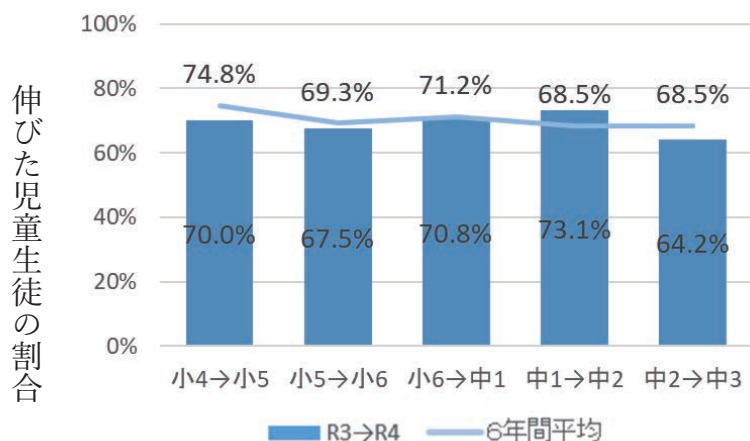
※数値の見方

これらのグラフ及びデータは、前年度と比べて「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

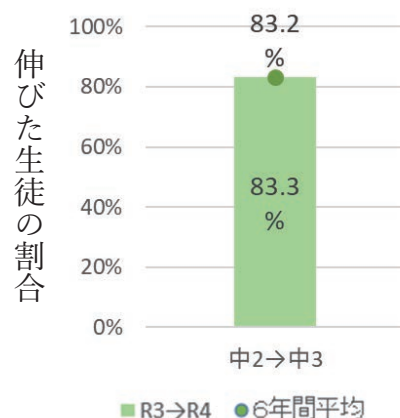
〔算数・数学集計結果〕

- 約6、7割の児童生徒の学力が伸びている。
- 過去6年間の平均と比べて、中学校第2学年の伸びた生徒の割合は多い。一方、中学校第3学年の学力が伸びた生徒の割合は少なくなっている。



〔英語集計結果〕

- 過去6年間の平均と同様に、約8割の生徒の学力が伸びている。



対応策

【よい取組の共有】

児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が多い、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びの実現】

本調査のデータ分析結果を踏まえ、質問調査結果における児童生徒の主体的・対話的で深い学びに係る意識や学習方略・非認知能力等の状況を把握した上で、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善を進める。

【学級経営の充実】

学習規律が定着し、児童生徒同士のトラブルが少ないなど、落ち着いた学級づくりを目指すとともに、保護者や地域の方々が学校の諸活動に積極的に参加できる学校づくりを実践する。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で、接続期における学習内容の変化に対する児童生徒一人一人への手立てを話し合うなど、小中連携を一層推進していく。

教科別授業改善の視点

国語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高い傾向にあるが、小4は「書くこと」において、小5・小6は「読むこと」において課題が見られた。
- 中学校では、「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が高い傾向にあるが、中1・中2は「話すこと・聞くこと」において、中3は「読むこと」において課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 単元の目標を明確にした授業づくり
どのような言語能力を身に付けさせるかを明確にし、児童生徒が学習に見通しをもち、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。
- 目的・場面・状況設定を大切にされた言語活動
言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科として、各学年の学習の系統性、他教科との関連、実生活とのつながりを意識した言語活動を設定しましょう。
- 既習事項を活用する場面の設定
児童生徒が、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高められるようにしましょう。
- 変容を実感させる振り返りの充実
子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問をもったりすることができるように、学習した過程や学習内容がどのように活用できるかを振り返る時間を確保しましょう。

算数・数学科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校の「データの活用」領域では、表やグラフを読み取ることは概ね正答率が高い傾向にあるが、グラフの特徴を読み取ることや資料の分類整理、目的に応じたデータの表し方の理解に課題が見られた。
- 中学校の「数と式」の正答率が高い傾向にあるが、「図形」では対称な図形の性質について、「関数」ではグラフから2つの直線の式や交点の座標を求めることについて、課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 単元の目標を明確にした授業づくり
学習する目的を児童生徒に意識させたり、新たな問いを見いださせたり、既習事項との相違に着目させるなどして学習のねらいに迫る課題を児童生徒が設定できるようし、粘り強く取り組ませ、「主体的な学び」を実現しましょう。
- 目的・場面・状況設定を大切にされた言語活動
本時のねらいに迫る発問や適切な切り返しを通して、児童生徒一人一人が自己との対話や他者との考えを比較検討するなどして、考えを広げ深める「対話的な学び」を実現しましょう。
- 既習事項を活用する場面の設定
児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項との共通点などを見いだすことにより、統合的・発展的に思考するなど「深い学び」を実現しましょう。
- 変容を実感させる振り返りの充実
数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動により、数学的に問題発見・解決する過程や結果を振り返らせ、思考や態度の変容を気付かせて価値付け、より質の高い「深い学び」を実現させましょう。

英語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 中2・中3ともに、聞いて把握した内容について、適切に応じる問題に無解答率が高い傾向にあり、課題が見られた。また、与えられた情報に基づいて、メッセージを正確に書くことについても課題が見られた。
- 文法事項としては、前置詞、疑問詞、頻度を表す副詞などの活用に課題が見られた

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

- 単元の目標を明確にした授業づくり
生徒に学習の見通しや活動への目的意識を持たせ、主体的に学習に取り組ませるために、単元全体のゴールの姿、身に付けさせたい力を明確にした「単元目標」と、それを達成するために1つ1つの授業でできるようになること（＝学習のめあて）を生徒に明確に提示しましょう。
- 目的・場面・状況を具体的に設定した言語活動
生徒が英語で自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、場面や状況に応じて相手意識を持って適切な表現をしたりすることができるようになるために、英語を使う具体的な目的・場面・状況を設定した言語活動を積み重ねましょう。また言語活動では生徒の良さや課題を共有する中間指導（活動の間に行う指導）を取り入れましょう。
- 既習事項を活用する場面の設定
学習内容を定着させるために、既習事項を活用して先生と生徒がやり取りを行ったり、使用する言語材料を縛らずに、自由に既習表現を活用したりする言語活動を設定しましょう。生徒の使った表現を紹介し広めたり、英語で何と言ったら分からないという言葉を指導・共有したりする中間指導（活動の間に行う指導）も取り入れましょう。
- 変容を実感させる振り返りの充実
生徒が授業を通してできるようになったことを実感できるように、生徒が行った言語活動に対するフィードバックや学んだことを整理する「まとめ」、生徒が振り返りを行う場面をつくりましょう。

＜各市町村教育委員会・学校における効果的な取組例＞

【授業改善】

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、市町村独自の授業のスタンダード（1時間の授業の流れ等）を作成、配布 ⇒教員の指導力の向上、若手教員等の授業改善の指針
- 小学校において、専門性の高い教員が学年を越えてその教科の指導を実施
⇒学びの質の向上、系統性をより重視した指導
- 各学校で実施される授業研究会を他の学校の教員でも参加できるよう、市町村全体で授業改善に向けての研修の促進 ⇒学校間交流の活性化、教員が相互に学び合える環境の構築

【家庭と連携した学習支援】

- 家庭学習の手引等を作成し、質的・量的の両面から家庭学習を充実 ⇒子供の学ぶ環境づくり

【各市町村教育委員会による各学校への指導・助言】

- 各市町村教育委員会が各学校へ訪問、県学力・学習状況調査の結果分析をきめ細かくサポート
- 学力を伸ばしている教員の良い取組を、会議などで積極的に紹介・共有・実施
⇒教員の経験と調査結果に基づく指導、多面的な見方による指導

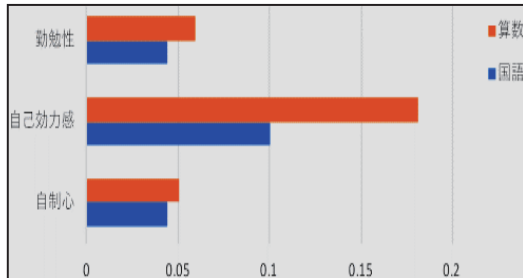
※ これらの取組は一例です。この取組例を参考に、各市町村教育委員会・学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図るようお願いいたします。

2 参考資料

①児童生徒質問紙の項目変更について

(1) 自己効力感について

- 令和4年度から、学力との関係でより強い正の相関関係が明らかになっている自己効力感を全学年で調査するように変更しました。
- 県学調で調査している自己効力感とは、自分がそれを実行できるという期待や自信のことです。
- 学力の向上につながるのある非認知能力について「自己効力感と学年固有の項目」を確認できるように、自己効力感を調査していた小5・中2には、「向社会性(相手の気持ちを考えるなど)」を加えております。



非認知能力と学力は正の相関関係(特に自己効力感)
(平成28年度データ活用事業分析報告書 P35 から)

(2) 「放課後の時間の過ごし方」について

- 「家での生活」についての質問項目を「放課後の時間の過ごし方」に変更しました。
- 回答状況から、児童生徒一人一人の生活や学習で抱えている課題(兄弟の世話・家族の介護をしている時間が長い、食事をしていない、宿題に取り組んでいない、寝る時間が極端に遅いなど)が明らかになることがあります。
- 学年の回答状況(帳票10)だけでなく、気になる項目については、児童生徒一人一人の回答状況(帳票01)を確認することで、個に応じた指導に役立てることも可能です。

【「放課後の時間の過ごし方」に関して質問している項目】

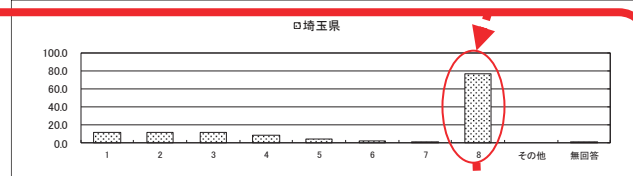
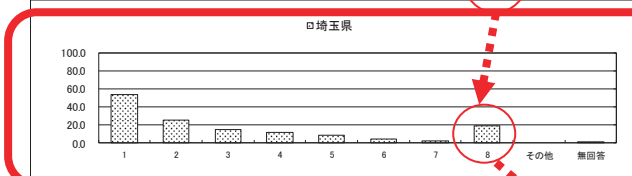
- ・塾や家庭教師などの学習の習い事をしていた
- ・家のお手伝いをしていた
- ・外で遊んでいた
- ・テレビ(インターネット動画を含む)を見ていた
- ・宿題や予習・復習など、一人で勉強していた
- ・お風呂に入っていた
- ・音楽やスポーツなどの学習以外の習い事をしていた
- ・きょうだいの世話・家族の介護をしていた
- ・ゲームをしていた
- ・SNSで友達や家族とコミュニケーションを図っていた
- ・食事をしていた
- ・寝ていた

【帳票で確認する場合】

帳票10 (それぞれの質問項目ごとにグラフ化されている)

(61) 平日(月～金)のある1日の放課後の時間の過ごし方について、ア～シのそれぞれについて、次のことは何時ごろにしていたか(当てはまる時こくをすべて選んでください)										
ウ	宿題や予習・復習など、一人で勉強していた									
選択肢	1. 17時～18時	2. 18時～19時	3. 19時～20時	4. 20時～21時	5. 21時～22時	6. 22時～23時	7. 23時以降	8. していない	その他	無回答
埼玉県	53.4	25.6	14.7	11.5	8.4	4.4	2.5	18.5	0.0	0.4

(61) 平日(月～金)のある1日の放課後の時間の過ごし方について、ア～シのそれぞれについて、次のことは何時ごろにしていたか(当てはまる時こくをすべて選んでください)										
ケ	兄弟姉妹の世話・家族の介護をしていた									
選択肢	1. 17時～18時	2. 18時～19時	3. 19時～20時	4. 20時～21時	5. 21時～22時	6. 22時～23時	7. 23時以降	8. していない	その他	無回答
埼玉県	11.4	11.7	11.3	8.2	4.6	1.8	0.9	76.1	0.0	0.8



帳票01

(児童生徒一人一人の質問調査の回答した選択肢が一覧になっている)



家庭学習に全く取り組んでいないような状況はありませんか。1日当たりのSNSや動画視聴の時間が長すぎませんか。等

児童生徒の回答状況を確認することで、児童生徒理解に役立てることが可能です。

01 学校用															
令和4年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校6年生) 児童質問紙調査 回答結果															
〇〇市立〇〇小学校															
学年	組	出席番号	個人番号	身(回答した) 選択肢の				質問番号(回答された) 選択肢の番号							
				61ア	61イ	61ウ	61エ	61オ	61カ	61キ	61ク	61ケ	61コ	61サ	61シ
6	1	34	0000000	6	1	6	2	1,2,7	6	1	6	2	1,2,7	6	1
6	1	2	0000001	8	7	6	1	2	8	7	6	1	2	8	7
6	1	10	0000002	8	6	1,6,7	5	6	8	6	1,6,7	5	8	8	6
6	1	7	0000003	8	1,6,7	6	5	7	8	1,6,7	6	5	7	8	1,6,7
6	1	12	0000004	8	1	8	1	2	8	1	8	1	2	8	1
6	1	18	0000005	4	1,7	8	3	7	4	1,7	6	3	7	4	1,7
6	1	20	0000006	6	1,7	8	7	2,7	6	1,7	8	7	2,7	6	1,7

②学習方略や非認知能力の質問項目

項目	説明
学習方略	子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑤に分類される。
① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など	
② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など	
③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など	
④ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など	
⑤ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など	
【児童生徒質問紙の項目】	
柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからなところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどろつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単などころだけ勉強する 問題が退屈つまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する
出典：心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉,(2007),心理測定尺度集/堀洋道監修.サイエンス社	
項目	説明
非認知能力	テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の5種類について質問を行っている。
① 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など	
【児童生徒質問紙の項目】	令和4年度の全学年に質問
自己効力感	授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う
	出典： P. Pintrich, et al.(1991) A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)

<p>② 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p>	<p>出典： Tsukayama, E., Duckworth, A. L., & Kim, B. (2013). Domain-specific impulsivity in school-age children. Developmental Science, 16, 879-893.</p>
<p>【児童生徒質問紙の項目】 令和4年度の中学1年生に質問 自制心 授業に必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないうきにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした</p>	
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p>	<p>出典： Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C. (2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. Personality and Individual Differences. 34(4). 645-664.</p>
<p>【児童生徒質問紙の項目】 令和4年度の小学6年生に質問 勤勉性 うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束をしたら、それを守ります 自分の部屋や机の周りはちらかっています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないうことはきちんとやります</p>	
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p>	<p>出典： Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. Journal of Personality and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.</p>
<p>【児童生徒質問紙の項目】 令和4年度の小学4年生、中学3年生に質問 やりぬく力 大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいつぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません 始めたことは何でもさい後まで終わらせませす 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p>	
<p>⑤ 向社会性 … 外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、 人々のためになることをしようとしたりする力 (例) 相手の気持ちを考える、親切にする など</p>	
<p>【児童生徒質問紙の項目】 令和4年度の小学5年生、中学2年生に質問 向社会性 私は、誰に対しても親切にしようとしている 私は、その人の気持ちをよく考える 私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける 私は、年下の子たちに対して、優しくしている 私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする</p>	
<p>出典： Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586. Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.</p>	

第3章

調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

- ① 各学校の実態を把握する
- ② 分析を行う
- ③ 仮説を設定する
- ④ 検証を行う

調査結果から、各学校の実態を把握し、分析を行うことで課題等を踏まえた仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって検証を行うといったP D C Aサイクルの確立につなげてください。

1 個人結果票について

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学級担任用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査



個人結果票の活用について

県教育委員会では、県内公立小・中学校の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒一人一人の学力の経年変化（学力の伸び）を把握するために、平成27年度から県学力・学習状況調査を行っています。

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。

先生方におかれましては、児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

【昨年度、調査を未実施の場合の児童生徒の個人結果票「今までの学力の変化」について】
昨年度の学力のレベルは表示されません。御留意ください。

1 個人結果票の返却及び活用の流れ

返却前

○ 個人結果票に、各学校で保管している個人番号シール票をもとに、組、出席番号、名前を記入する。

※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることになります。間違いがないか十分に確認してください。

返却時

児童生徒には

- 本調査の特徴を伝えます。
 - ・「学力の伸び」が分かる調査であること
 - ・現在の「学力のレベル」が分かる調査であること
- 一人一人の1年間のがんばりや伸びを認め、まずはほめ、その後苦手領域を中心に家庭学習をするよう言葉かけをします。
- 今後の学習計画に対するアドバイスをします。

保護者には

- 可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えます。
- 伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えます。
- 家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えます。

埼玉県学力・学習状況調査 復習シート

検索

※ この結果を今後の学習に生かせるよう、
できる限り早く返却いただけるよう御協力をお願いします。

埼玉県教育委員会

2 個人結果票の見方について

【個人結果票 1 ページ】

1 ページには、**2・3 ページの、教科に関する調査結果の見方**が掲載されています。

また、**それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例**が掲載されています。各教科とも調査問題の出題範囲は前学年の内容です。参考にしてください。

【個人結果票 2・3 ページ】

国語

あなたの学力は、「レベル8」の中で伸びがまりました。

レベル	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、前年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

話すこと・聞くこと、書くことはよくできました。さらに力を伸ばすために、話し合いをする際にはお互いに尊重し、複数の意見を述べながら聞き、決める態度をまめたり、発言目的に合っているか考えたりしながら、話し合いを上手に進めましょう。書く際には、記録文や報告文、手紙などのいろいろな形で伝えたいことが表現できるように心がけるとよいです。

また、文章を読む際は、積用句やことわざなどを探してまめたり、いくつかの文節で構成されているか意識したりすることは、力を伸ばすことにつながります。集めた言葉については、話し方や書いたりするときに使うことでしっかり身に付けるように心がけましょう。

今回の結果を参考に、照ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

数学

あなたの学力は、「レベル6」の中で伸びがまりました。

レベル	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

学習に関するアドバイス

あなたの数学の学力は、前年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

数式式の学習においては、正確に計算するとともに、その計算の意味を理解することが大切です。3年生では平均数や学習や文章を使った問題を解いたり理解したりする学習をするので、これまで学んだ数や式の意味や計算の仕方を生かして考えましょう。

また、資料の活用や学習においては、資料を集めて整理し、その傾向を読み取って判断できるようにすることが大切です。3年生ではデータの一部分を調べ、データ全体の傾向を考える学習をするので、調査方法や結果について、日常生活と関連させて考えましょう。

今回の結果を参考に、照ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

英語

あなたの学力は、「レベル7」の中で伸びがまりました。

レベル	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

学習に関するアドバイス

あなたの英語の学力は、前年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

書くことは、他の領域に比べて、よくできました。さらに書く力を伸ばすために、新出単語や教科書の基本文・本文などを活用しながら、日常の出来事や自分の考え、気持ち、その理由などについて、ALT等に書いた手紙や日記、感想文を積極的に書いてみましょう。必要に応じて、辞書なども活用しましょう。

また、英語で話されたことについて聞き取る力を高めるために、授業では先生やALTの先生の話す英語や友達との発表をどのように入力されているのか、話し手の最も伝えたいところはどこかを考えながら聞くように話されています。聞き取った内容を日本語や英語でメモする習慣をつけましょう。すべての英語が分からなくても、聞こえた言葉やメモから、どんな感想文なのかをつまづかずに読みましょう。

今回の結果を参考に、照ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

中学校3年生の例

※ 個人結果票は、【小学校4～6年生用】【中学校1年生用】は国語と算数・数学の2教科、【中学校2・3年生用】は国語・数学・英語が掲載されています。

(1) 学力のレベルなどの見方について

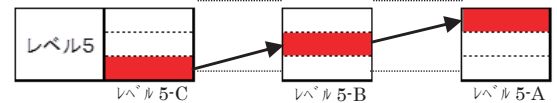
学力のレベルを赤いバーの位置で表しています。学力のレベル表記は全部で12段階ありますが、測定は各学年7レベルの間で行っています。例えば、中学2年生の測定範囲は、レベル5からレベル11になります。

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで学力の伸びがわかります。

例えば、同じレベル5の中でも、学力のレベルが高くなるとバーの位置が変わります。
※前学年での赤いバーの位置と、今回の赤いバーの位置を比べると、学力の変化がわかります。

学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～レベル7
小学校5年生	レベル2～レベル8
小学校6年生	レベル3～レベル9

学年	学力のレベル
中学校1年生	レベル4～レベル10
中学校2年生	レベル5～レベル11
中学校3年生	レベル6～レベル12



(2) **今までの学力の変化** について

「児童生徒の学力の変化」について、次のような形でコメントを記載しています。

例： **あなたの学力は、「レベル11」まで伸びました。**

コメントは、次の①～⑧のパターンがあります。

	児童生徒の学力の変化の状況	表示されるコメント
①	学力が伸びて、レベルが上がった場合	あなたの学力は、「レベル〇」まで伸びました。
②	同じレベル内で、伸びがあった場合	あなたの学力は、「レベル〇」の中で伸びがありました。
③	学力の位置が前年度と同じだった場合 学力の位置が前年度より下がった場合 (スモールステップでレベルが1つ下がった場合を含む)	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR 3の児童生徒の学力レベルの数字)
④	2つ以上レベルが下がった場合 正答数が0問であった場合 (学力のレベルの は表示されません)	学校の先生等と、学習などについて相談をしてみましょう。
⑤	全ての調査問題に正答した場合	あなたの学力は、レベル〇以上になりました。 (〇は当該学年での最高レベルの数字)
⑥	本年度の調査は実施したが、昨年度の調査を未実施の場合	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR 3の児童生徒の学力レベルの数字)
⑦	本年度調査の一部教科を未実施の場合 (昨年度実施・未実施の場合とも)	未実施教科：本年度の調査を受けていないため、今回の学力のレベルは表示できません。 (実施教科については①～⑥の状況に応じたコメントが表示されます。)
⑧	本年度の調査を全教科未実施の場合 (個人結果票の返却はありません)	—

※個人結果票を返却する際のお願い

【①②⑤の場合】(「学力の伸び」が見られた場合)

- ・本調査のねらいを実現できるよう、学力の伸びた教科について、**児童生徒一人一人の1年間のがんばりを認め、ほめる**言葉かけをお願いします。
- ・その際、「教科の領域等別正答率」や「県全体の正答率分布」なども参考にしながら、**よさを具体的にほめる**よう心がけてください。

【③④の場合】(学力の位置が前年度と同じ、または前年度より下がった場合)

- ・伸びている他の教科や、「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よいところをほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。
- ・学力が前年度と同じか下がっている児童生徒については、「授業への取組」「学習習慣」「生活習慣」などにつまずきや悩みがある可能性があります。**個々の学習方法や生活上の悩みを聞き取る、教育相談などを行う**ことで、児童生徒の状況を把握し、助言し、その後の取組等を見届けるなど十分な支援をしてください。

【⑥の場合】(昨年度未実施の場合)

- ・「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よいところをほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。

【⑦の場合】(今年度一部未実施の場合) 実施教科について、①～⑥に準じてください。

【⑧の場合】(今年度全教科未実施の場合)

- ・個人結果票はありませんが、日常の授業等ががんばっているところ等、ほめることを中心に言葉かけをしてください。

(3) **学習に関するアドバイス** について

アドバイスは3段構成になっています。

例：「同じレベル内で、伸びがあった場合」のコメント

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

図形は、大変よくできました。図形の学習は、平行線の性質など今まで学習した性質を使い、いろいろな視点から考えることが大切です。3年生では相似な図形の学習があるので、図の中に含まれるいくつかの性質を関連させて考えを深めましょう。

また、関数の学習は、式から交点を求めたり、式をグラフに表したりする問題ができるようになることが大切です。3年生では放物線の学習があるので、分かっていることを、式・表・グラフと関連させ、ていねいに取り組みましょう。

今回のあなたの学力レベルを参考に、県ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

①




②

③

- ・①では、児童生徒の学力の状況について説明し、「学力の伸び」を認めるコメント、授業や学習習慣などへのアドバイスを記載しています。
- ・②では、領域等別に、今後どのような学習がさらに効果的であるかを記載しています。
- ・③では、復習シートの活用を促しています。

「学力レベルが前年度と同じだった場合」「学力レベルが前年度より下がった場合」については、「必要に応じて、学校の先生やご家族の方と相談してみるのもよいでしょう。」などのコメントを記載しています。児童生徒の現状や要望に応じて**面談などを行い**、つまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、子供たちが自分をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるよう働きかけましょう。

(4) **教科の領域等別正答率** 及び **県全体の正答率分布** について

- ・「教科の領域等別正答率」には、領域ごとの正答数、設問数、正答率を県全体の平均も併せて記載しています。レーダーチャートの実線（）は児童生徒の正答率、網掛け（）になっている部分は、県全体の平均正答率となっています。学力の変化の状況以外に、児童生徒のよさを認める際の参考としてください。
- ・「県全体の正答率分布」は、人数を横軸とした県全体の分布を棒グラフで示しています。当該の児童生徒が含まれる集団を表す棒グラフの色を  として、県全体におけるおおよその位置が分かるようになっています。ただし、**本調査の目的は、児童生徒一人一人の「学力の伸び」や変化を把握してよさを伸ばしていくこと**にありますので、県全体の中での位置に重きを置いた働きかけや指導は控え、あくまで**参考として御活用ください。**

【個人結果票4ページ】

(5) 「質問紙調査の結果～規律ある態度の達成目標～」について

- ・規律ある態度の達成目標について、児童生徒の回答状況を示しています。
- ・面談等において**よいところを認め、ほめる**材料にしてください。

(6) 自由記述欄の活用について（例）

- ・今後の学習計画や取組などについて児童生徒が記入する。
- ・保護者等に、がんばりを認めたり励ましたりするコメントを記入してもらう。
- ・学級担任が、児童生徒のがんばりなどを認めるコメントを記載しておく。

2 調査結果の分析・活用について①（学校担当者用）

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学校担当者用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析・活用の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

分析・活用の手順

分析

①学年全体の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票28】

- ・学年別、教科別の学力の伸びの様子がグラフで示されています。
- ・県の学力の伸びの様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

②学級の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票42】

- ・帳票を前年度の学級ごとに並べ替え、「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」が計算されています。
- ・学校全体で良い取組を共有することを目的とし活用します。学力の伸びが見られた学級や教科を確認します。

活用

○学力を伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有する。

- ・学力を伸ばした学級や教科の担当者からの聞き取りや、学力を伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見付け改善を図る。→【帳票11】

- ・「学力」「学力の伸び」「学習方略」「非認知能力」「生活習慣」等の関係から、自校の成果や課題を見付けます。

埼玉県教育委員会

【帳票28】を活用した分析

分析①

学年全体の伸びを把握し、分析する。

○【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。

→ 「平均学力レベルの状況」や「学力階層別の状況」を分析する。

(1) 平均学力レベルの状況

【分析①】学力の伸び幅の違い

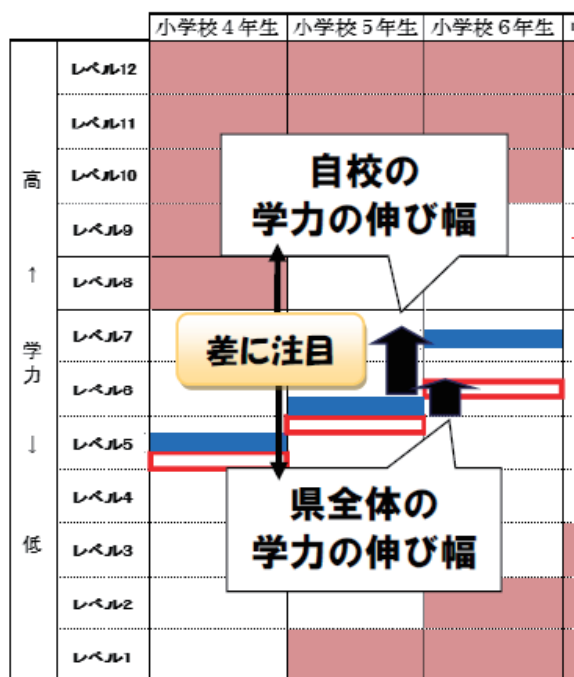
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

【分析②】学力レベルの違い

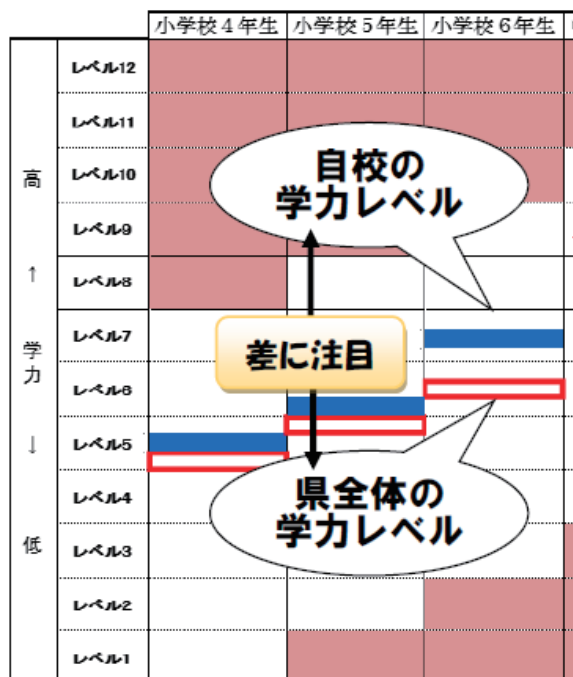
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見付ける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力レベルの違い



※【帳票27】では、異なる年度の同学年と、学力のレベルを比較することができます。

※【帳票33】では、学力を伸ばした児童生徒の割合や、学年全体の学力の伸びが分かります。

「伸び幅が大きい」、「学力のレベルが高い」といった学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力層別の学力の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見付ける。

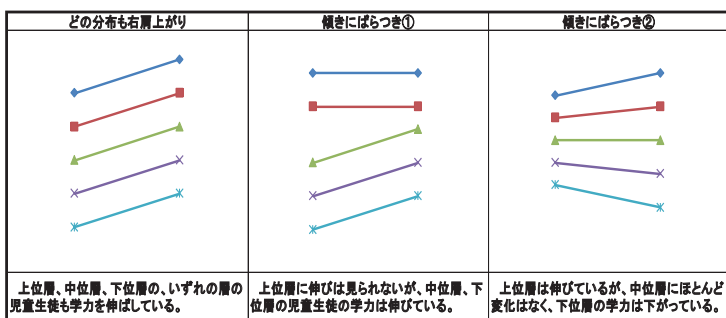
【分析②】 埼玉県のグラフの傾きとの比較

→ 県平均よりグラフの傾きが大きい学年や教科を見付ける。

【分析③】 各学力層の学力レベル

→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見付ける。

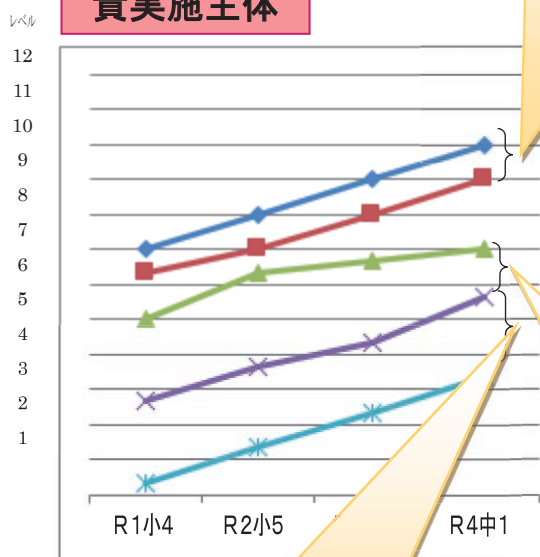
<グラフの見方>



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

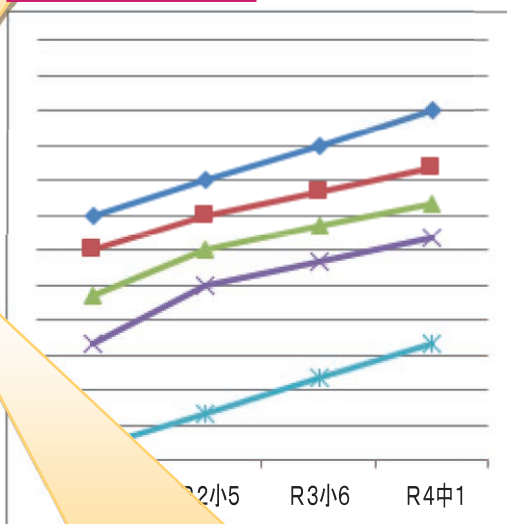
分析例

貴実施主体



下位層のグラフの傾きが
県のグラフより傾きが大きい
⇒ 下位層への充実した支援が
あったのではないかな。

埼玉県



中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒ 前学年でのつまずきがあるのではないかな。

学年の中で上位層の学力のレベルが高い
⇒ 上位層を伸ばす工夫があったのではないかな

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

【帳票42】を活用した分析

分析②

学級の学力の伸びを把握し、分析する。

○ 【帳票42】学力分析データ（前年度在籍クラスを基準にした学力の伸び・学習方略・非認知）クラス別

→ 前年度の「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」を分析

分析例

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査(旧小学校5年生)

学力分析データ(前年度在籍学年・クラスを基準にした伸び・学習方略・非認知)

●●市立●●小学校

※各数値は、R3、R4調査をともに実施した児童生徒を集計対象としています。
 ※R3児童生徒数は、昨年度質問紙を含むいずれかの教科を実施した児童生徒の数を表しています。
 ※学力を伸ばした児童生徒は、「学力レベル(3分割)」を数値化(例:1-Aは"1",12-Aは"36")したとき、昨年度より数値が1以上増加している児童生徒となります。
 ※学力の伸び率(学力レベルの差の平均)については、集計対象となる児童生徒の「学力レベル(3分割)」を数値化(例:1-Aは"1",12-Aは"36")して計算しています。
 ※「主体的・対話的で深い学び」や「非認知能力」の数値の範囲は1.0～5.0となっており、数値が高いほどよい値となっています。

R3 学年	R3 組	R3児童生徒数	学力を伸ばした児童生徒の割合(N)		学力の伸び率 (R4学力レベルとR3学力レベルの差の平均)		R4学力レベル平均		R3学力レベル平均		主体的・対話的で深い学びの実施
			国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
		埼玉県平均	58.7	58.9	2.1	2.2	19.9	18.5	17.8	16.3	-1.2
5	1	29	62.5	52.6	3.3	2.7	22.5	21.4	19.3	18.7	0.3
5	2	30	68.8	54.5	3.4	2.0	21.8	19.2	18.4	17.1	-0.9
5	3	30	57.9	61.9	1.7	3.4	20.5	20.7	18.7	17.3	0.1

前年度の学級で並べ替えてあります！

【例】1組は、ベテランの担任が担当クラスの学力等を順調に学力伸ばしている。
 ⇒学級経営に定評のある担任が、他の2人へ学級経営のノウハウを共有

【例】2組は国語、3組は算数の指導で大きく成果を上げている。
 ⇒担任の教科専門性が高いことが考えられるので、得意な教科のよい指導方法を共有

※【帳票42】は、今年度の児童生徒の調査結果を、前年度の学級に戻して集計した帳票です。本年度の調査結果を前年度の指導の成果として検証することができます。特に、中学1年生の調査結果については、出身小学校の6年生の学級に戻し、小学校にデータを返却しています。これにより、小学校6年生のときの学級での指導を検証することができます。また、学習方略や非認知能力等の伸びも検証することができます。

	R3→R4(変化量)									
	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟な方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	動機性(参考値)		
学校平均	-0.2	0.0	-0.1	-0.2	-	-0.2	-0.1	-	1.0	-
市町村平均	0.3	0.2	0.0	0.2	-	0.6	0.3	-	0.9	-
埼玉県平均	-0.4	0.1	0.1	0.0	-	0.4	0.2	-	0.0	-

1 担当からの聞き取りや、授業参観により、よい取組を把握します。

【方法例① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

<聞き取り例>

- ・ 子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・ 授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・ 授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・ 授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・ 学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・ 家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

聞き取りの
ポイント

- ・ 上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・ 新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

<参観の視点の例>

- ・ 主体的な学びを実現するための工夫
（学習目標や見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・ 対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子供・子供同士の双方向の対話の実現等）
- ・ 深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・ 言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）

参観の
ポイント

- ・ 授業後の協議が深まるよう、参観するポイントを示すなどの工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。



協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

活用例① 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析
——「どのような児童生徒が学力を伸ばしているのか？」——

手順1 「①クロス集計（「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目）」のシートを開く。

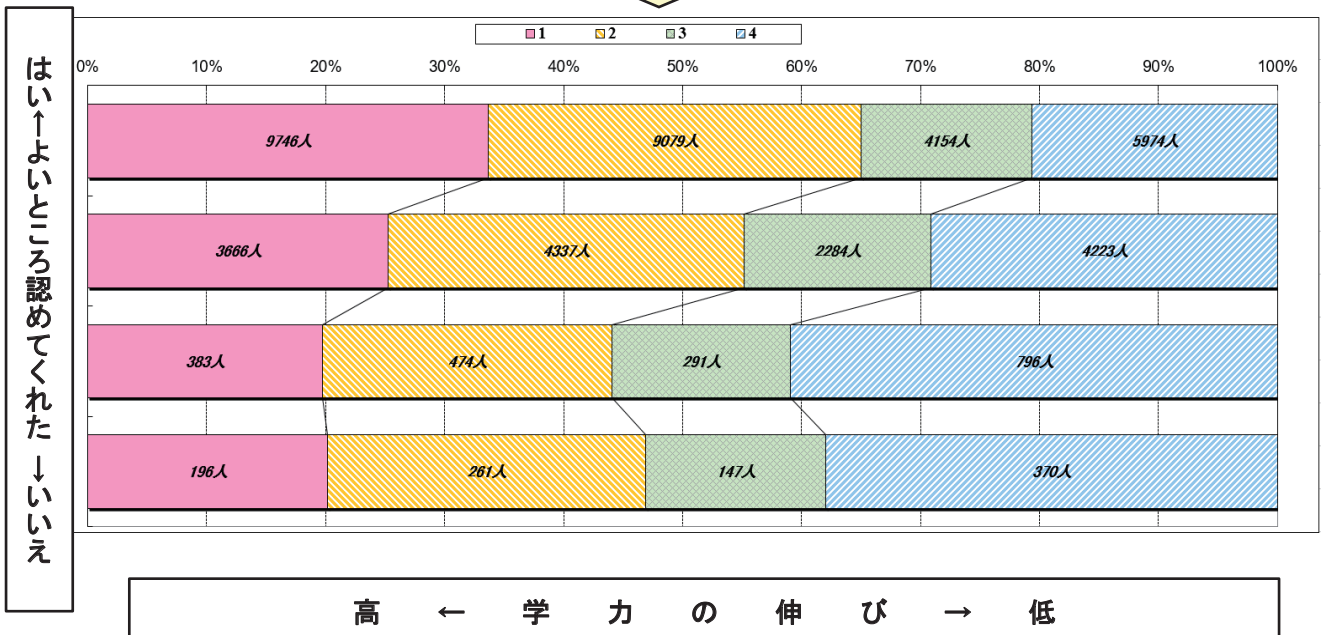
手順2 縦軸カテゴリーで質問紙調査の項目を選ぶ。

横軸カテゴリーは学力の伸び、教科を選ぶ。

縦軸カテゴリー⇒ 質問《（小5）学校の先生たちは自分のよいところをみとめてくれましたか》

横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語

フルダウンで選択するだけでクロス集計の帯グラフが出来ます！



上の帯グラフは、「(前年度の)学級で学校の先生たちは自分のよいところをみとめてくれましたか」と「国語の学力の伸び」のクロス集計です。

※上の例は、令和4年度小学校第6学年（全県）のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小（中）学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。

**活用例② 「他項目との関連の強さ」を視点とした分析
——「学校として何に取り組むのが有効か？」——**

埼玉県学力・学習状況調査分析支援プログラム<小学校6年生 関連探索>

探索項目⇒ 算数【領域等】《量と測定》成績階層

プルダウンで選択するだけで相関係数のリストが出ます！

手順1 「④関連探索」のシートを開く。

手順2 探索項目を選ぶ。

探索項目(相関係数が高い順に表示)	相関係数
算数【観点】《知識・技能》成績階層	強く関連 0.850
算数【領域等】《数と計算》成績階層	やや強く関連 0.704
算数【領域等】《データの活用》成績階層	やや弱く関連 0.583
国語【観点】《知識・技能》成績階層	やや弱く関連 0.571
算数【領域等】《変化と関係》成績階層	やや弱く関連 0.566
算数【観点】《思考・判断・表現》成績階層	やや弱く関連 0.565
国語【領域等】《言葉の特徴や使い方》成績階層	やや弱く関連 0.550
国語【観点】《思考・判断・表現》成績階層	やや弱く関連 0.545
国語【領域等】《読むこと》成績階層	やや弱く関連 0.512
国語【領域等】《話すこと・聞くこと、書くこと》成績階層	0.457
国語【領域等】《情報の扱い方、我が国の言語文化》成績階層	0.395
質問《しょう来どの学校まで進みたいと思いますか》	0.290
質問《(小5算数)授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと》	0.230
質問《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくで勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も入り)	0.215
質問《学校の授業時間以外に、ふたん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくで勉強している時間や家庭教師に)	0.211

- ・相関係数が0.8以上のときは **強く関連**
- ・相関係数が0.7以上のときは **やや強く関連**
- ・相関係数が0.5以上のときは **やや弱く関連** と表示が出ます。
- ・相関係数が0未満のときは 相関係数の値が**赤字**で表記されます。

上の例は、探索項目に「算数【領域等】《量と測定》成績階層」を選択したものです。多くの項目と相関関係が出ています。

※上の例は、令和4年度小学校第6学年(全県)のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータが入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小(中)学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名が入っています。

3 調査結果の分析・活用について②（学級担任用）

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学級担任用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各学級担任の先生方にも調査結果から、①学級の児童生徒の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといった確かな学力の育成に向けたPDCAサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、学級担任の先生方に向けた分析・活用の例を作成しました。学級担任の先生方が本調査から児童生徒の実態を多面的に把握し、個に応じた指導の充実につながるよう御活用ください。

分析・活用の手順

分析

○ 児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

→【帳票40】

- ・ 学年、学級の児童生徒一人一人の学力レベル、伸び、学習方略、非認知の値が一覧で示されています。
- ・ 児童生徒一人一人の学力の伸び等の値を県平均や学年平均、学級平均と比較したり、昨年度との変化量を見たりして、気になる（学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考え）児童生徒を確認します。

活用

○ 気になる児童生徒に対して、どのような手立てや方策をとるか考える。

- ・ 気になる児童生徒の要因分析等をして、支援の仕方を学年等で検討し、効果的な手立てや方策などの取組を模索します。

参考

色付け等をする、児童生徒一人一人の実態が分析しやすくなります。

- ・ 【帳票40】のデータをコピー＆ペーストすることで、色付けができるファイルを添付してあります。必要に応じて御活用ください。

埼玉県教育委員会

【帳票40】を活用した分析

分析

児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

- 【帳票40】「学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別」から児童生徒一人一人の状態を捉える。

40 学校用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校6年生)
 学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別
 ●●市立▲▲小学校

縦に見ることで、伸びや変化量から気になる児童生徒を見つけられることができる。

学年	性別	国語				算数・数学				R3→R4(変化量)						R4結果											
		昨年度か の伸び	昨年度か の伸び	昨年度か の伸び	昨年度か の伸び	主体的・対 話的で深い 学びの実現	基礎的・基 本的な力	学習方略	非認知能力	主体的・対 話的で深い 学びの実現	基礎的・基 本的な力	学習方略	非認知能力	主体的・対 話的で深い 学びの実現	基礎的・基 本的な力	学習方略	非認知能力										
学	平均	8-C	3	7-C	7-A	2	7-C	-0.2	0.0	-0.1	-0.2	-	0.0	-0.1	-	-0.2	-	3.9	3.6	3.7	3.3	-	4.0	4.1	3.5	3.8	-
市	平均	7-A	3	6-A	7-C	2	6-B	0.0	0.0	0.1	-0.1	-	0.0	0.0	-	0.0	-	4.0	3.5	3.6	3.3	-	3.9	4.1	3.3	3.8	-
校	平均	7-A	3	6-A	6-A	1	6-B	0.0	0.1	0.1	0.0	-	0.1	0.0	-	0.0	-	4.0	3.5	3.6	3.3	-	3.8	3.9	3.3	3.8	-
		7-B	-4	8-A	9-A	3	8-A	-0.3	0.3	0.0	0.3	-	0.0	0.0	-	-0.1	-	3.6	4.5	4.5	4.3	-	4.0	5.0	3.4	4.3	-
		9-B	6	7-B	6-A	2	6-C	0.7	0.5	1.5	-1.3	-	0.5	-1.0	-	0.3	-	4.8	3.8	4.3	2.5	-	4.3	3.3	3.1	4.0	-
		8-B	8	5-A	6-C	-3	7-C	-0.6	-0.3	0.0	-0.3	-	0.5	-0.3	-	0.0	-	3.5	3.0	2.8	3.3	-	4.0	3.0	4.0	3.4	-

横に見ることで、気になる（学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考える）児童生徒の学力レベル・伸び・学習方略・非認知の状況が把握できる。

【分析】学力レベル・伸び・学習方略・非認知の数値から気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりする。

- 【例】
- ・ 学力レベルが国語（算数または両教科とも）で、県平均より高い（低い）児童生徒がいる。
 - ・ 学力レベルが国語（算数または両教科とも）で、大きく伸びた（伸び悩んだ）児童生徒がいる。
 - ・ 学習方略や非認知能力が、県平均より高い（低い）児童生徒がいる。
 - ・ 学習方略や非認知能力の変化量が、大きい児童生徒がいる。

【活用】分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援する。

- 【例】
- ・ 先生御自身の経験から、普段の授業の様子で把握していた実態と県学調の結果で見られた数値を比較して要因等について吟味する。
 - ・ 学力に課題がある数名の児童生徒をピックアップし、学習方略や非認知能力の数値を確認し、要因等について吟味する。
 - ・ 学力等を順調に伸ばしている教員や教科指導で大きく成果を上げている教員の効果的な取組を共有する。
 - ・ 過去に県が取り組んだ学力向上事業や県学調の報告書、県学調活用リーフレットに書かれている事例を参考にして課題に応じて取り組んでみる。

【重要】
昨年度との変更点

学力と正の相関がある「自己効力感」を全学年で調査

令和3年度まで	令和4年度から
非認知能力	非認知能力
動機性 (参考値)	自己効力感 (参考値)
- 4.0 -	3.5 3.8 -
- 3.9 -	3.3 3.8 -

令和4年度から、学力との関係でより強い正の相関関係が明らかになっている自己効力感を全学年で調査するようにし、自己効力感を調査していた小5・中2に「向社会性(相手の気持ちを考えるなど)」を加えました。これからは、学力の向上につながるのがある非認知能力について「自己効力感と学年固有の項目」を確認できます。

※令和3・4年度の方非認知能力のスコアは一部参考値となっております。

【参考】以下の実施マニュアルにしたがって、帳票40を色付けすると状況が見やすくなります。

ビフォー（色付け前）

アフター（色付け後）



埼玉県学力学習状況調査 帳票40色分けアレンジ 実施マニュアル

1 Excelシート【帳票40コピー】を開く。



2 分析したい帳票40（原本）を開く。

①

赤い四角①で囲んだ部分をクリックして全選択 ⇒ コピー

3 1で開いたExcelシート【帳票40コピー】を開く。

赤い四角①で囲んだ部分をクリックして全選択 ⇒ 貼り付け

4 シート【クラス名簿コピー】にクラス名簿（学校保管）をコピーする。



5 印刷帳票に反映される。

※出席番号の重複・未記入等で反映にずれが生じる可能性あり。

⇒対応策：貼り付けたシート【帳票40コピー】で直接確認して修正してください。

②

印刷帳票①

6 印刷ボタン（赤い四角①で囲んだ部分）をクリックすることで印刷可能です。

4 まずは、この帳票から！

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学校担当者用

埼玉県学力・学習状況調査

まずは、この帳票から！



本シートでは、各学校における分析等が効率的且つ円滑に行えるように、活用をおすすめする帳票を4つ紹介しています。是非、参考にしてください。

学級担任の先生におすすめ！ → 帳票40

一人一人の様々な結果データの一覧です。学年、学級ごとにデータがまとめられています！

学年主任の先生におすすめ！ → 帳票28

学年全体の学力レベルの変化や学力の伸びの状況等が教科ごとに、グラフの形でまとめられています。

グラフ化

教科担当の先生におすすめ！ → 帳票09

各教科の領域ごとの正答率、設問ごとの正答率・無回答率や難易度について知ることができます。

※上記帳票28においてグラフ化する前の数値です。

今後の学校の取組におすすめ！ → 帳票33

学力を伸ばした児童生徒の割合、学力レベルの伸びの平均が分かります。「よい取組」等を共有するきっかけづくりとなります。

埼玉県教育委員会

5 埼玉県学力・学習状況調査を活用した実践事例

「コバトンのびのびシート」を活用して、学力に課題のある児童生徒について学力や学習の状況を把握し、効果的な指導方法を話し合い、共有し、日頃の指導に生かす。

【A小学校の例】

コバトンのびのびシート

【年・組・氏名】 6年2組9番 増玉 〇〇

教科	年度	正答率	レベル	伸び	伸び率	
					数と計算	図形
国語	R04	76.7	8-B	3 (2)	80.0	100.0
	R04	87.5	8-A	3 (1)	92.3	75.0
算数	R04	87.5	8-A	3 (1)	92.3	75.0
	R04	87.5	8-A	3 (1)	92.3	75.0

実力テスト(国語)				実力テスト(算数)			
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
70	80	55	60	60	70	70	65
75	85	60	70	65	80	85	75

項目	内容	伸び	変化
主体的・対話的で深い学び	「主体的・対話的で深い学び」ができていたか	4.2	-0.8
柔軟的方略	学習の進め方を自分の状況に合わせて柔軟に変えていく活動	4.0	0.3
プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動	3.0	-1.0
作業方略	ノートに思いやり、声に出したりといった作業を中心とした学習を進める活動	4.0	0.5
認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動	3.8	-1.0
努力調整方略	「苦手」等の感情をコントロールして学習の意欲を高める活動	4.5	-0.5
※自己効力感	自分はそれができると期待や自信	3.4	0.0
※動機性	やるべきことをきちんとやる力が	3.4	-0.8

学習方略と非認知能力の変化

学力レベルの変化

内容(特筆すべき質問項目を記入)	R04
勉強するときは、内容を讀んでいるか考える	あまり当てはまらない
勉強しているときに、やった内容を覚えていかどうかを確認する	少し当てはまる
勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する	どちらともいえない
勉強していて大切だと感じたところは、書かなくてもノートにまとめる	少し当てはまる

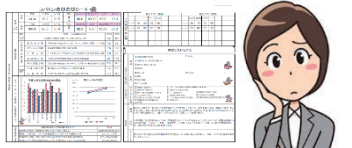
国語

書くことが苦手です、すらすらと文章を書くことができない。そのため、作文を書くときは、構成がうまくたてられるように、事前に作文メモを作成させてから、作文を書くようにさせた。今後、作文メモを作成しなくても、自分で構成を組み立てて書くことができるように支援していく必要がある。

算数

文章問題に苦手意識を持っており、問題を見ただけですくおきらめてしまう。そのため、問題を理解しやすく図で表し、ヒントカードを渡し、最後まで一人で解けるように支援した。今後、より多くの問題を解かせ、自身を付かせさせる必要がある。

のびのびシートから先生の眩き



〇〇さん、話すこと・聞くこと、書くことの領域が弱いよね・・・どうしたらいいかしら？

研修会や普段の職員室で



〇〇さんの話すこと・聞くこと、書くことの領域を伸ばすにはどのような指導をしたらいいですか。

資料を提示しながら発表させる時は、資料のどこに着目してほしいのか説明を付け加えさせるといいよ。

私も、授業でそうしてみよう

スピーチメモを書くときに、簡単に説明したり、詳しく説明したりする部分を検討させるといいと思うよ。

場面や相手を意識して発表させるには、話す様子や聞き手を動画で撮影して、振り返るといいよ。

効果検証

- 例えば・・・
- 授業で行う小テストや単元テスト等の結果の分析
 - 次年度の県学調結果の分析
 - 全国学調結果の分析

授業で実践



のびのびシートへの記録と共有



大切なことは、教職員で、「コバトンのびのびシート」をもとに、よりよい指導方法について話し合いをして、それをみんなで共有することです。

